

(2) 浮遊粒子状物質 (SPM)

大気中の浮遊物質は、「降下ばいじん」と「浮遊粉じん」に分けられる。浮遊粉じんの中で、粒径が $10\mu\text{m}$ (=100分の1mm) 以下で大気中に長期間浮遊し、人間の呼吸で肺に沈着しやすく、呼吸器系に悪影響を与えるものを浮遊粒子状物質 (SPM) という。

粒子状物質の発生源は、工場等の産業活動によるものだけでなく、自動車(特にディーゼルエンジン車)の走行による排出ガスやタイヤの巻き上げによるもの、風による土壌粒子の舞い上がり等(中国大陸からの黄砂も含まれる)の自然現象によるものもある。

環境基準：1時間値の1日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ1時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること

①浮遊粒子状物質測定結果 (令和4年度)

(mg/m^3)

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
東部総合庁舎	最高	0.076	0.043	0.090	0.091	0.086	0.075	0.087	0.039	0.037	0.039	0.058	0.091	0.091
	平均	0.018	0.017	0.020	0.021	0.022	0.019	0.014	0.014	0.010	0.011	0.013	0.016	0.017
愛鷹中学校	最高	0.070	0.097	0.077	0.080	0.127	0.100	0.066	0.177	0.061	0.060	0.130	0.077	0.177
	平均	0.011	0.011	0.013	0.012	0.018	0.012	0.008	0.009	0.006	0.007	0.008	0.010	0.010
金岡小学校	最高	0.056	0.040	0.063	0.065	0.089	0.063	0.034	0.044	0.035	0.031	0.033	0.033	0.089
	平均	0.012	0.013	0.014	0.012	0.019	0.013	0.009	0.010	0.007	0.007	0.008	0.011	0.011

※最高：各月の1時間値の最高値、平均：各月の日平均最高値

②浮遊粒子状物質測定結果 (令和4年度)

区分	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が $0.2\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた時間数とその割合		日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合		1時間値の最高値	日平均値 $0.1\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日が2日以上連続したことの有無	長期的評価による日平均値 $0.1\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日数	環境基準の適否
	日	時間	mg/m^3	時間	%	日	%	mg/m^3	有× 無○	日	適○ 否×
東部総合庁舎	314	7580	0.017	0	0.0	0	0.0	0.091	○	0	○
愛鷹中学校	363	8731	0.010	0	0.0	0	0.0	0.177	○	0	○
金岡小学校	363	8734	0.011	0	0.0	0	0.0	0.089	○	0	○

③浮遊粒子状物質の経年変化 (各年度の平均値)

(mg/m^3)

区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
東部総合庁舎	0.018	0.022	0.021	0.022	0.023	0.021	0.018	0.017	0.019	0.016	0.014	0.016	0.017
愛鷹中学校	0.013	0.013	0.014	0.016	0.016	0.015	0.015	0.012	0.014	0.013	0.011	0.010	0.010
金岡小学校	0.011	0.010	0.013	0.018	0.017	0.017	0.014	0.013	0.013	0.012	0.011	0.011	0.011

※H29年度から東部総合庁舎で測定 (H28年度以前は勤労青少年ホーム)

